

SIFA ニュース



NO. 115

2022 年度 冬号

(公財) 鈴鹿国際交流協会

内 容

[お知らせ]

○わいわい春まつり

○外国につながる子どもたちがやりたいことを応援するセミナー

○日本語教室 ふたば

[報告]

○スリランカオンライン講座

○日本語講座

○多言語災害ボランティア研修

○ポルトガル語での心の相談

わ い わ い 春 ま つ り 現 在 準 備 中

日 時：2023年5月4日(木・祝) 10:00~15:30

ところ：イスのサンケイホール鈴鹿

国際交流フェスタ「わいわい春まつり」の実行委員会が始まりました。今年のフェスタをどうやって盛り上げようか新しいメンバーも加わってみんなで意見を出し合いながら進めています。

春号でより詳細にお伝えできると思います。お楽しみに♪



外国につながる子どもたちの やりたいことを応援するセミナー

SIFAも参加している多文化共生を推進するグループ「鈴とも」(市社会福祉協議会で活動)が外国につながる児童・生徒のみなさんが目標を見つけるきっかけづくりの為のセミナーをします。

外国につながる若い先輩が、これまでの進路や就職の選択をどうやってきたのかや目標に向かって頑張れたコツを話します。

お近くに外国籍の子がいたらぜひ教えてあげてください。

と き：2月25日(土) 14:00-16:00

ところ：牧田コミュニティセンター

講師：藤井マユミさん(鈴鹿大学学生・ブラジル)

香月イチローさん(管理栄養士・ペルー)

松岡ナオキさん(飯野高校・ブラジル)

対象：小学4年生~高校2年生の外国につながる子ども達

内容：大学進学を決めた高校3年生、大学生、栄養士として働く社会人など外国につながる先輩からお話を聞きます。


申込み：右のQRコードを読み込んで、必要事項を送信してください。

日本語教室 “ふたば”

1月から新しい日本語教室が市内にできました。ひらがな・カタカナ・簡単な漢字を中心に勉強します。

と き：毎週水曜日 10:00~11:30

ところ：玉垣会館

(鈴鹿市東玉垣町522-1) → 

おかね：¥200 (4回)

申込み：Ryoko Yoshida さん

☎090-1754-7919



国際理解連続講座

スリランカ オンラインセミナーを実施！！

長引くコロナ禍、今年も、国際理解講座をオンラインで開催しました。今年焦点を当てたのは、「スリランカ」！
鈴鹿大学でも長く教鞭をとっておられたアーナンダ クマーラ先生に講師をお願いしました。

11月から1月まで、3回に渡り、それぞれのテーマに沿ってお話を頂きました。

* 第1弾「スリランカの現状」 11月26日(土) 参加者 44名

2010年には、ニューヨークタイムズで、世界の訪問すべき国第一位にまでなったスリランカの魅力について、たくさん紹介がありました。ウバ茶や色の付いた宝石、天然スパイス香辛料が有名なこと、仏教に関連する巨大遺跡など魅力的な観光地を、たくさんの写真と共にご紹介頂きました。

なんでも、世界遺産はエジプトよりも多いとのこと。お釈迦様が悟りを開いたと言われる菩提樹の根っこが一番古いものがスリランカにあるそうです。又、世界初の女性首相はイギリスのサッチャーではなく、スリランカの女性だとか。

しかし2019年にテロが起り、住民騒動による政治困難や大統領の亡命・首相や全国会議員の辞任がおきます。

アラガラヤという国民たちの戦いの中で見える生活の破綻の様子や、日本とは違う教育制度や医療制度のお話もありました。

そして、その昔、第2次世界大戦後のサンフランシスコ講和条約で、スリランカのジャヤワルダナ大統領の演説が日本を救った話、彼が亡くなった時、遺言で彼の角膜のひとつをスリランカ人に、もうひとつの角膜を日本人に移植した、というお話もありました。

* 第2弾「カレースパイスから見えてくるスリランカの食文化」 12月17日(土) 参加者 40名



スリランカでは、1日20~30種類のカレーを食べるのが一般的です。そこには香辛料がふんだんに使われています。何故、これだけ複数のカレーを食べるのか、使われている香辛料の効能についてお話を伺いました。

ウコンやシナモンやトウガラシなどなど・・・体に及ぼす影響や効果について学ぶと、それを生涯どれ位の頻度で食べるかによって、将来大きな差となる、という話を聞きました。糖尿病や認知症、疲労回復や冷え性などに効くハーブの話などは、自分の将来の健康に直結するため、みなさん、興味津々だったと思います。

スリランカ産の紅茶にシナモンを入れて飲むのがとても良いそうです。



セミナーの最中に「もうAmazonで注文しました！」というメッセージがChat Boxに入ったことには、びっくりして笑ってしまいました。

* 第3弾「スリランカと日本 次世代を担う若者について」 1月22日(日) 参加者 36名

両国の若者を良く知るクマーラ先生から見た、日本の学生の強みと弱みについて、参加されたみなさんの意見もChat Boxに書いて頂きながらディスカッションし、グローバル人材の大切さ、そしてグローバル人材になるために何が必要か、話を聞きました。国籍ではなく、能力で雇用をすることが大切になるこれから、日本人の弱点をどのようにカバーし、競争力を付けるか、考えさせられました。

これまで先進国で働くことが主だったが、これからは、日本への逆輸入のため、途上国・アジアなどで働く機会も増えていくその時、誰が競争相手になるのか？日本の学生は、自分の意見を積極的にアピールできる発信力を持つことがますます大切になると実感しました。特に、IT関連企業で人材が不足する中、日本側の企業の立場でグローバル人材をどのように受け入れれば良いかと質問される方も居て、近い将来、日本の若者にグローバル人材化が求められた時、果たして日本はどうなっているのだろうか？と個人的には少し不安も覚え、また同時に期待も膨らみました。

クマーラ先生は、スリランカでも、常に「今の自分に何が出来るか？」を考え、日本とスリランカの架け橋となり、様々な活動に専念されています。鈴鹿の若者も、一度スタディツアーを組んで、勉強に行くと良いなあ、と思いました。

日本語講座を開催しました

9月から12週に渡りジェフリーすずかにて初級日本語を開催しました。SIFAでは、ひらがな・カタカナが読める、少し日本語で会話ができる方を初級としています。春から夏までの入門講座を終えた方の他、新しい学習者の参加もありました。

耳から覚えた日本語だと、助詞が抜けていたり間違えて使っていたりすることがありますが、学習することで、これまで使っていた自分の日本語に改めて向き合う機会になったようです。

最近、日本語能力試験の学習希望が増えてきていますので、来年度は、能力試験 N3、N2 に向けた講座を企画しています。



(吉田先生(中央)と学習者)

多言語災害ボランティア研修

11月9日、ボランティアさん6名とSIFA職員でアスト津と伊勢市防災センターを鈴鹿市社会福祉協議会のバスをお借りし訪問しました。

アスト津では、三重県ダイバシティ社会推進課多文化共生班の谷本さんから大規模災害時の三重県の災害対応体制についての説明をしていただきました。平常の業務を行う班と災害に特化して課をまたいだ特別班が組織されること、在住外国人への情報提供のために、県国際交流財団(MIEF)と共に災害時多言語支援センターを立ち上げる事を教えていただきました。

次にMIEFの上原さんから在住外国人向けの防災研修や災害時語学サポーターの養成、外国人防災リーダーズの育成など体制強化の説明を受け、県の災害対応の取り組みについて学びました。

その後、伊勢市防災センターに移動し、伊勢市の防災啓発について体験コーナーを巡りながら学びました。水没した車から脱出するときの扉の重さを体験したり、持って逃げる為に選んだものの重さを計算できるゲームをしたり、津波の被害が想定されている所を大きな地図で俯瞰してみたりなど、学びの多い体験ができました。

最後に、伊勢市が「災害」、「外国人」をキーワードに取り組んでいる事業について2つ教えていただきました。ひとつは、外国人が参加する地区の防災訓練です。地区の方と話し合いながら、できるだけその地区に住んでいる外国人に参加してもらうように努めているそうです。もう一つは、技能実習生向けの防災講座です。地震がほとんどないベトナムなどから来日している人も多いため、体験コーナーを通していざという時について考える機会になっており好評とのことでした。

鈴鹿においては、外国人市民の皆さんが防災について考える機会がまだまだ不足していますので、防災意識が向上する機会を少しずつ作っていきたいと思います。



外国につながる児童の冬休みの宿題支援教室

夏休みに引き続き、冬休みにも宿題支援教室を開催しました。今回は、河曲小学校で4日間、鈴鹿高専で5日間実施しました。心配していた大雪やコロナによる中止もなく、予定通りの日程でできました。

両校に併せて20人の児童が参加し、ボランティアさんがほぼマンツーマンで付いて活動しました。

外国につながる子どもたちは、普通学級以外に国際教室からも宿題が出ている子がいますし、日本語力にもばらつきがあります。日本人の子に比べて、どうしても時間がかかってしまう部分がありますが、寄り添うことで、頑張ろうという気持ちが続きます。

ある学校では伝記の本を読んで本の内容を要約して感想を書くという宿題が出ていましたが、ボランティアさんと対話しながら進める事で、こういう宿題にもきちんと取り組みました。



書初めの練習



図書室を使ってお勉強



時計の教材を使って確認



上手に書くポイントを確認



一緒に計算をやってみる



書き出してみると良く分かる

ポルトガル語での心の相談会を開催しました

さわやか福祉財団の助成金により、今年度はポルトガル語での心の相談会を行うことができました。

ブラジル人の臨床心理士ホカマ・サラさんの助けを借りて、これまで3回実施し、17人の支援が出来ました。専門家に相談できたことで、参加者は幸せそうな顔に変わり、やる気を持って帰って行きました。

コロナ禍で人と人の距離が離れてストレスがたまり、気持ちが沈んできています。SIFAで受けている相談も、専門家を必要とする内容が多くなりました。

2月19日(日)は、今年度最後の相談会になります。お近くに悩んでいるブラジルの方がいらっしゃったら、お声がけください。



公益財団法人鈴鹿国際交流協会(SIFA)

〒513-0801 鈴鹿市神戸1-17-5 別館第3 TEL:059-383-0724 FAX:059-383-0639

✉ sifa@mecha.ne.jp

URL: <http://www.sifa.suzuka.mie.jp>